国土交通省

資料－５

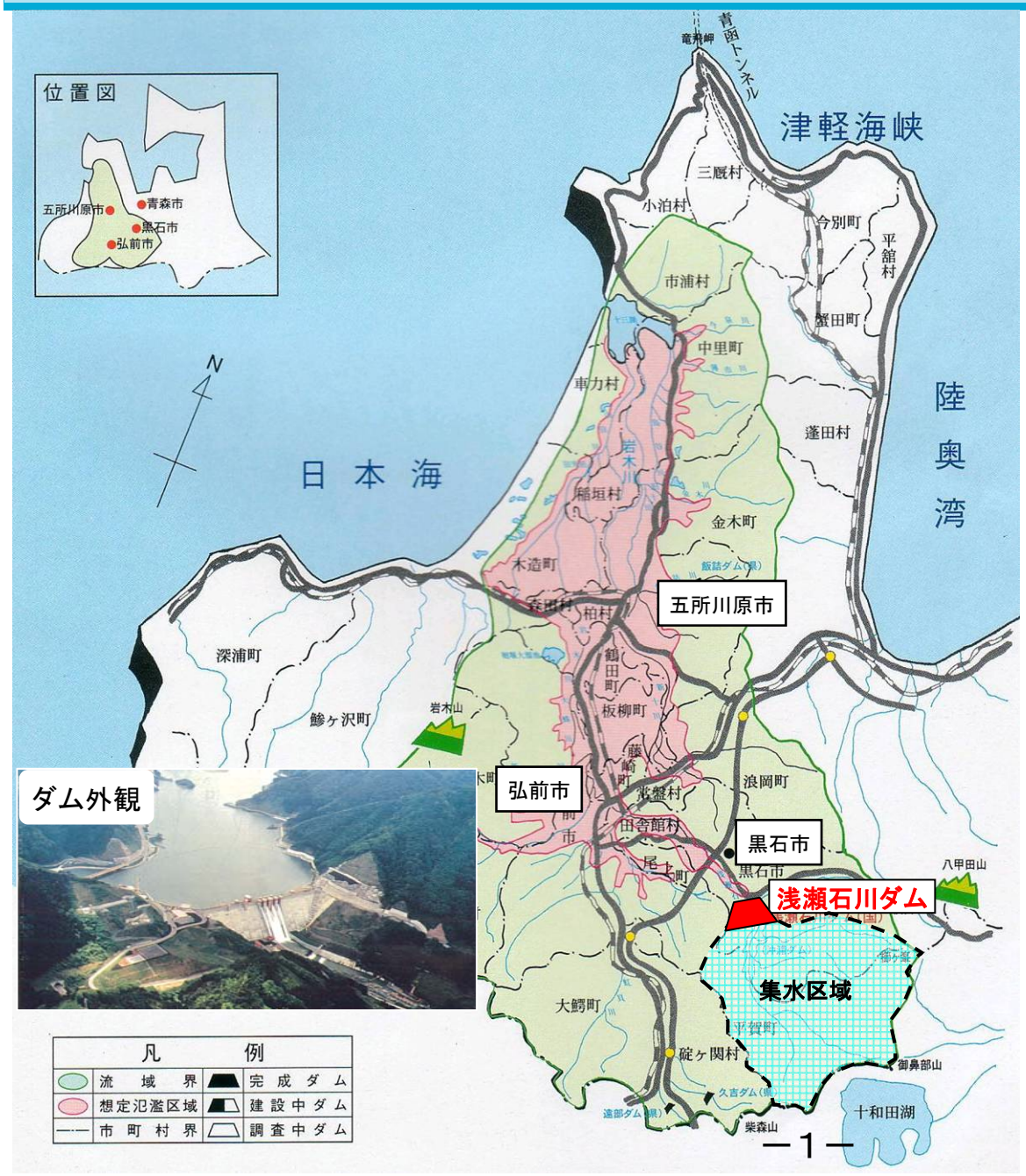
# 浅瀬石川ダムの管理状況

平成２１年１１月２６日

東北地方整備局
浅瀬石川ダム管理所

# 浅瀬石川ダムの概要

国土交通省







## (1)建設の経緯

- ・昭和42年 4月　予備計画調査着手
- ・昭和46年 6月　実施計画調査着手
- ・昭和48年 4月　建設事業着手
- ・昭和49年 10月　基本計画告示
- ・昭和50年 12月　補償基準妥結・協定調印（水没201戸）
- ・昭和54年 9月　ダム本体建設工事着手
- ・昭和61年 8月　ダム本体コンクリート打設完了
- ・昭和62年 11月　試験湛水開始
- ・昭和63年 10月　竣工（総事業費905億円）
- ・平成元年 4月　管理運用へ移行

## (2)ダムの目的

①洪水調節
洪水期間（7/1～9/30）において，計画高水流量2,000m3/秒のうち，1,500m3/秒をダムに貯留し，500m3/秒を下流に流す事によって，浅瀬石川及び岩木川沿川地域の洪水被害を軽減する。

②流水の正常な機能の維持
水辺環境や水生生物等の生育生息など自然環境を維持する河川水量を確保する。（浅瀬石川朝日橋地点で2.20m3/秒の水量を確保）

③上水道
黒石市，弘前市，五所川原市，平川市(旧平賀町・旧尾上町)，青森市(旧浪岡町)，藤崎町（旧藤崎町・旧常盤村），板柳町，鶴田町，田舎館村の9市町村の約35万人に計画最大123,500m3/日の水道用水を給水する

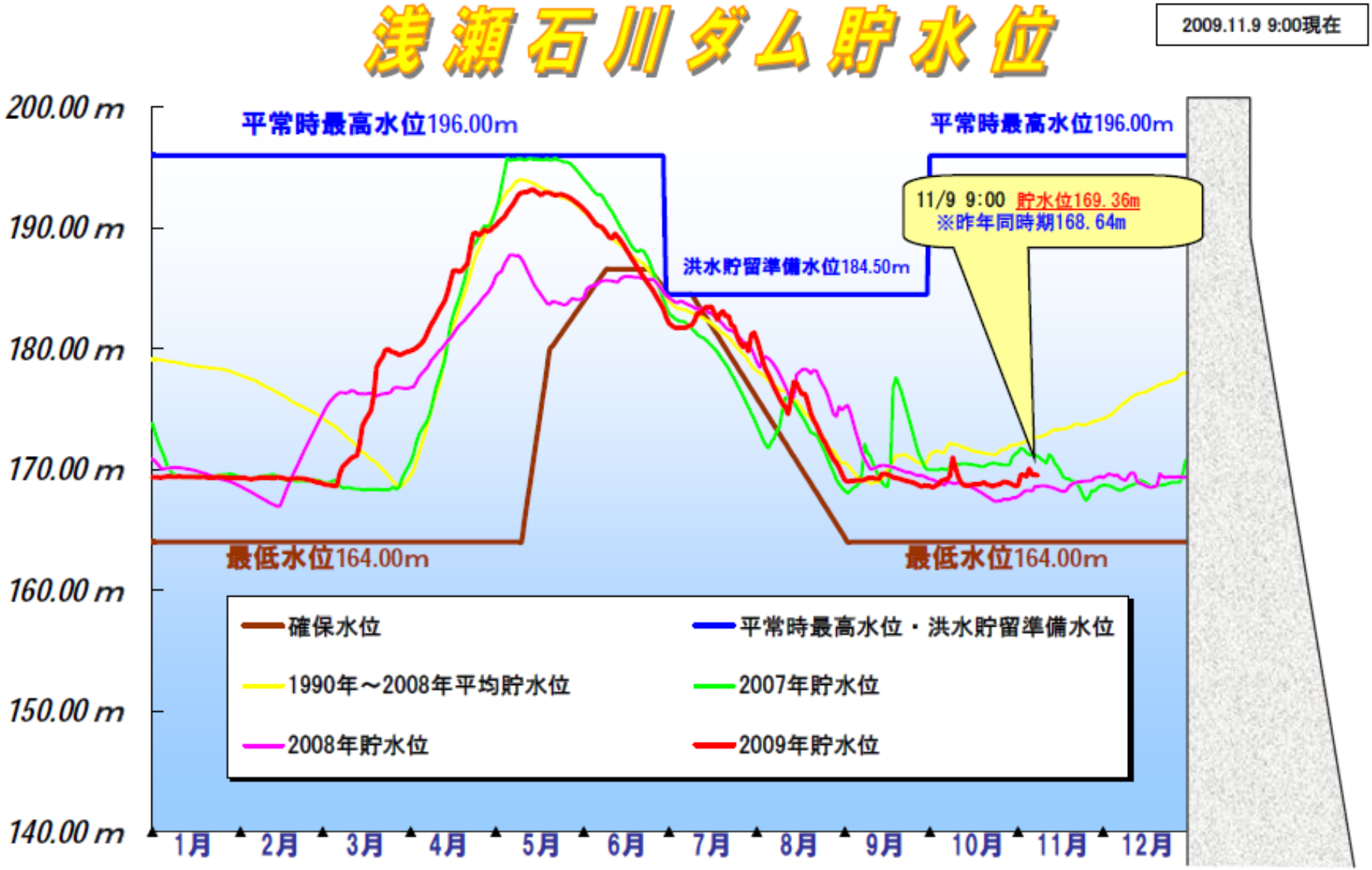
④発電
ダム直下流の発電所において，水力により最大出力17,100kw を発電する。

## (3)ダムの諸元

| | | |
|---|---|---|
| 型　　式 | ： | 重力式コンクリートダム |
| 堤　　高 | ： | 91m |
| 堤 頂 長 | ： | 330m |
| 有効貯水容量 | ： | 43,100,000m3 |
| 流域面積 | ： | 225.5km2 |
| 湛水面積 | ： | 2.2km2 |

# 浅瀬石川ダム貯水位

国土交通省

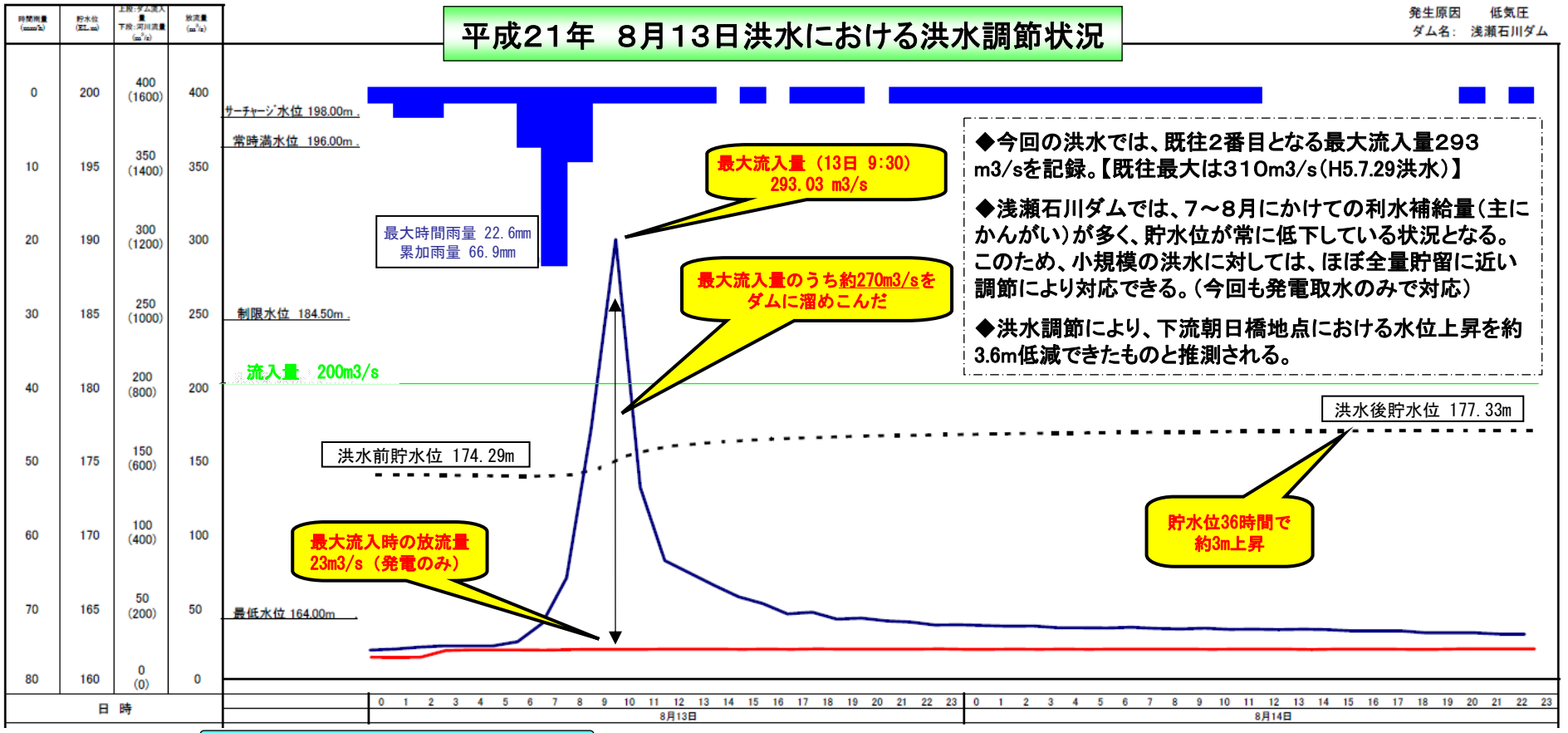


# H21．8．13洪水実績（浅瀬石川ダム）

国土交通省

## 平成21年　8月13日洪水における洪水調節状況

発生原因　低気圧
ダム名：　浅瀬石川ダム




◆今回の洪水では、既往2番目となる最大流入量293 m3/sを記録。【既往最大は310m3/s（H5.7.29洪水）】

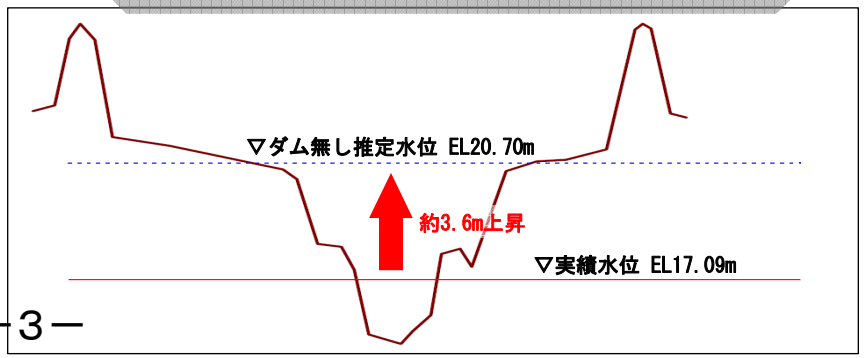
◆浅瀬石川ダムでは、7～8月にかけての利水補給量（主にかんがい）が多く、貯水位が常に低下している状況となる。このため、小規模の洪水に対しては、ほぼ全量貯留に近い調節により対応できる。（今回も発電取水のみで対応）

◆洪水調節により、下流朝日橋地点における水位上昇を約3.6m低減できたものと推測される。

### 浅瀬石川ダムの洪水実績

| No. | 洪水 | 発生要因 | 流域平均雨量 | | ダム流入量・放流量 | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 最大時間雨量 mm/h | 総雨量 mm | 最大流入量 m3/s | 最大放流量 m3/s |
| 1 | 平成2年10月27日洪水 | 低気圧 | 11 | 151 | 228.6 | 5.9 |
| 2 | 平成5年7月29日洪水 | 前線 | 13 | 137 | 310.4 | 92.5 |
| 3 | 平成7年8月6日洪水 | 前線 | 24 | 84 | 264.1 | 24.4 |
| 4 | 平成8年7月3日洪水 | 梅雨前線 | 17 | 89 | 224.8 | 167.8 |
| 5 | 平成13年9月15日洪水 | 秋雨前線 | 22 | 104 | 267.4 | 24.5 |
| 6 | 平成14年8月7日洪水 | 前線 | 33 | 83 | 277.4 | 24.8 |
| 7 | 平成14年8月11日洪水 | 前線 | 15 | 102 | 262.6 | 111.2 |
| 8 | 平成16年9月30日洪水 | 台風 | 14 | 123 | 239.8 | 24.5 |
| 9 | 平成18年8月18日洪水 | 台風＋前線 | 37 | 90 | 275.6 | 11.2 |
| 10 | 平成19年9月17日洪水 | 前線 | 20 | 108 | 262.8 | 22.9 |
| 11 | 平成21年8月13日洪水 | 低気圧 | 23 | 67 | 293.0 | 23.3 |

### 下流の朝日橋地点で約3.6mの水位上昇を抑制



# 浅瀬石川ダム　フラッシュ放流を実施

国土交通省

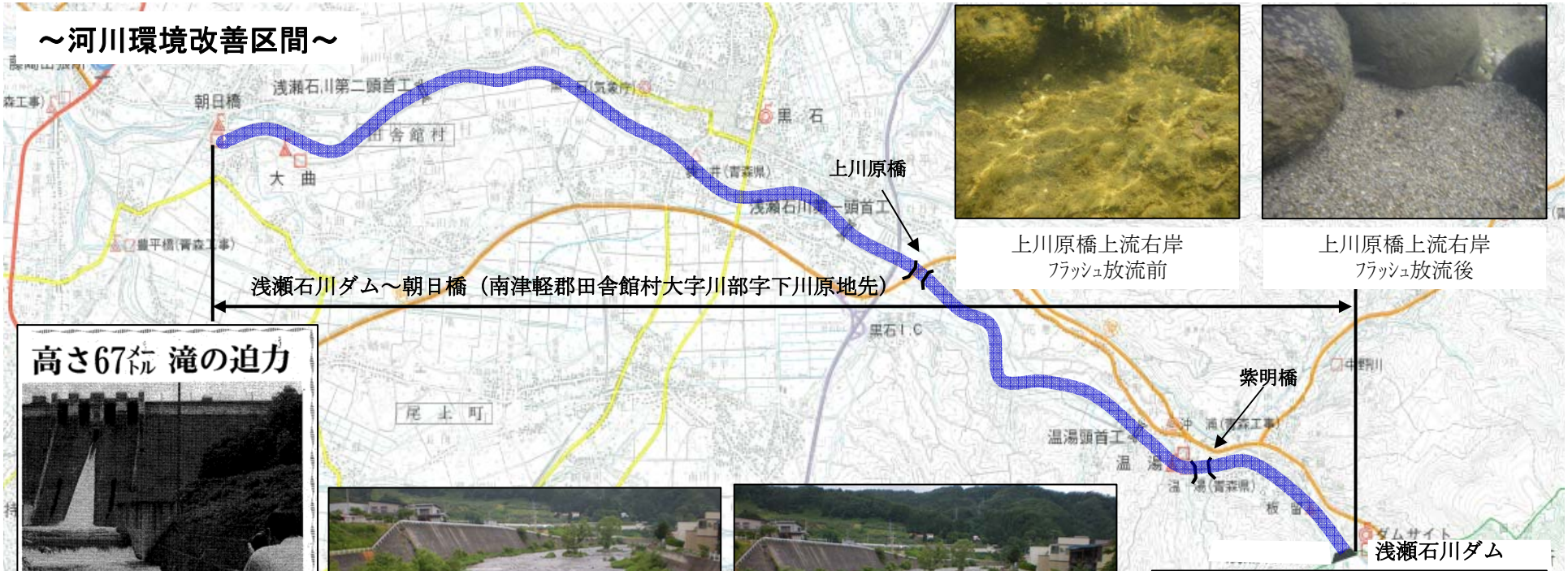
日時　：　平成21年6月30日　10時00分から15時00分

当日の放流量　：　10時00分よりゲート放流を開始し，12時00分頃放流量最大（60m3／s）として15時00分まで継続

（通常の放流量は15m3／s程度）

改善効果　：　放流により，河川内のよどみや枯れた藻類，堆積した砂や泥等などを洗い流す効果が得られた。

～河川環境改善区間～






上川原橋上流右岸
フラッシュ放流前



上川原橋上流右岸
フラッシュ放流後



高さ67メートル 滝の迫力

排出される水が巨大な滝のような浅瀬石川ダムのフラッシュ放流

滝のようで、涼味満点の景観を見せた。

この放流は、通常の放水量の約4倍に当たる、最大で毎秒60立方㍍もの水を流し、下流河川のよどみや枯れた水生植物、堆積（たい）した土砂を洗い流す目的で行われた。2006年6月以来で3年ぶりになる。午前9時55分、流域のスピーカーから放流を知らせるアナウンスがあった。高さ約91㍍のダム堤体の上部、地上約67㍍にあるオリフィスゲートと呼ばれる排水口が開けられ、ダム湖に満々とたたえられていた水が一枚の白い布のようにコンクリートの堤体を滑り降りた。水はいったん勢いを緩めるプールにためられたが、およそ1時間半後にはその堤も越えて流れ出した。

友人たちと見物に来た、近くの農業○○雄さん（67）は「貴重な

平成２１年７月１日
東奥日報　朝刊



平成２１年６月２９日　１６：１３
フラッシュ放流前　紫明橋下流



平成２１年６月３０日　１３：１９
フラッシュ放流中　紫明橋下流



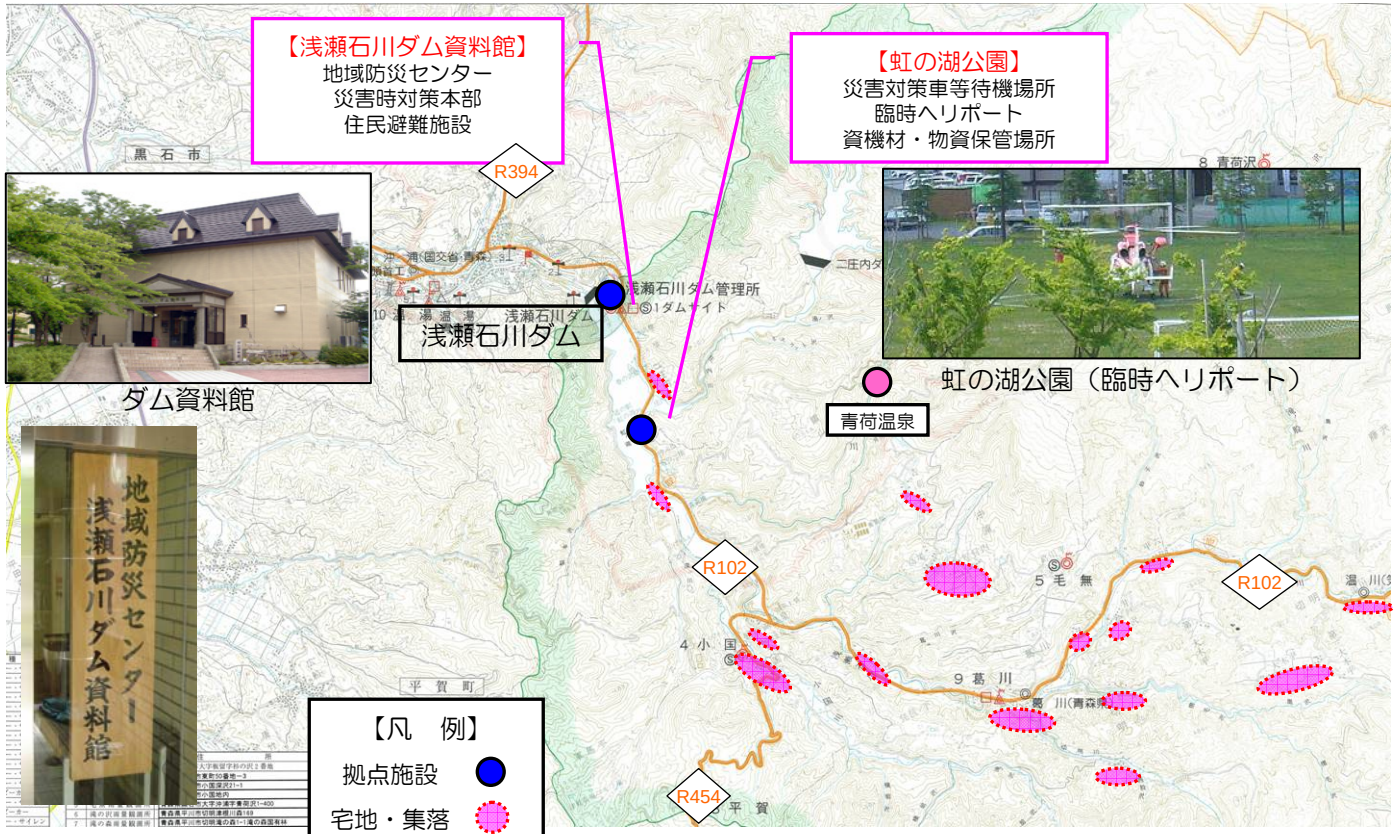
平成２１年６月３０日　ﾌﾗｯｼｭ状況写真

# 「災害時におけるダム周辺施設の利用に関する協定」を黒石市と締結

◇浅瀬石川ダム上流域の山間部には宅地・集落が点在、災害時には孤立の恐れ

◇このため、ダム周辺施設（ダム資料館、虹の湖公園）を防災拠点と位置づけ、住民や観光客の避難場所や災害対策車両の集結・待機場所等に活用する協定を黒石市と締結（H21.7.23）

※　岩手・宮城内陸地震の際、胆沢ダム学習館が有効活用されたことを踏まえた協定締結











浅瀬石川ダム管理所

## 災害協定締結

黒石市

### 支援拠点 虹の湖公園

資料館はセンターへ 防災計画に盛り込む

浅瀬石川ダム管理所（平石進所長）と黒石市は、災害時に浅瀬石川ダム周辺施設を利用する協定を締結し、23日市長室で行われた締結調印式で、平石所長と鳴海広市長が協定書に押印した。浅瀬石川ダム資料館を地域防災センターとして避難・会議スペースを確保、虹の湖公園を車両集結、臨時ヘリポートなど活動支援拠点とする。東北では初めての取り組みだと説明している。

避難スペース、会議スペースを確保、虹の湖公園を活動支援拠点として災害対策車両の集結や待機場所、臨時ヘリポート、応急復旧資

浅瀬石川ダム管理所と黒石市は、災害時に浅瀬石川ダム周辺施設を利用する協定を締結し、23日市長室で行われた締結調印式で、平石所長と鳴海広市長が協定書に押印した。浅瀬石川ダム資料館を地域防災センターとして避難・会議スペースを確保、虹の湖公園を車両集結、臨時ヘリポートなど活動支援拠点とする。東北では初めての取り組みだと説明している。

約4万7000平方メートル、合わせて約5万8000平方メートルに及ぶ。

協定の内容は今後、市が見直し作業を進めている地域防災計画に盛り込む。浅瀬石川ダム管理所には昨年10月、浅瀬石川ダム放流警戒警報装置による気象情報等の伝達に関する協定」を締結している。

1～6条からなる協定書に押印を終えた夕張管理所の平石所長は「設置を有効に活用し、地域のために役立ちたい」、鳴海市長は「安全・安心のための協定」

潮公園周辺（二庄内）が

1～6条からなる協定書に押印を終えた夕張管理所の平石所長は「設置を有効に活用し、地域のために役立ちたい」、鳴海市長は「安全・安心のための協定」

平成２１年７月２５日
津軽新報